

私は、ばあちゃんが好きです。ばあちゃん自身も好きだし、「ばあちゃん」という呼び方も好きです。本当は、美友のばあちゃんと書きたいところですが、今回は私のばあちゃんと書きます。

私のばあちゃんの家は、私の家のとなりにあります。だから、赤ちゃんのところからずっと一緒です。毎日のように保育園の送りむかえをしてもらったり、畑で野菜を採ったりしました。母さんがいないと、背中におんぶしてもらったり、ベビーカーでお散歩に連れて行ってもらったそうです。

また、お兄ちゃんやお母さんとけんかした時は、ばあちゃんの家にも、泣きながらにげこみました。

何かがなくても、いつもいろんな気持ちで「ねえ、ばあちゃん。」と、話しに行きます。

家で私がしかられていると、その声を聞いて、「まあ、そう言わんでもええわ。」と、私を助けてくれます。そして、「じゃあいっぺんうちにおいで。」と言って、ばあちゃんの家でいろんな話をしてくれます。遠い親せきの話や、戦争中の話など、聞いていて頭が変になりそうぐらいむずかしい話でも、ばあちゃんの話を知っていると、何故か心が落ち着きます。

私が生まれてから、何回「ねえ、ばあちゃん。」と言ったことでしょうか。そして、何回ばあちゃんに助けられたことでしょうか。

六年生になった今でも、いろいろと助けてもらっていますが、ばあちゃんがいるから、今の私があるんだと思います。

この「ねえ、ばあちゃん。」は、いろんな気持ちの場面で使います。悲しくてたまらない時に「ねえ、ばあちゃん。」うれしい報告がある時に「ねえねえ、ばあちゃん。」その声の明るさや暗さ、強さや弱さ、速さで、ばあちゃんは私の気持ちをとてもよく分かってくれます。「ねえ、ばあちゃん。」って、温かくて何て良いひびきなのでしょう。時々「ねえ、おばあちゃん。」と言う時もあります。例えばお客さんがいる時なんかがそうです。同じような言葉でも、知らないうちに使い分けて、しっかりと気持ちを伝えることができます。それをばあちゃんは、しっかりと受けとめて、私の気持ちをちゃんと分かってくれます。

私にとって「ばあちゃん」という言葉は、優しさや温かさ、安心感や信らい感、静かな力強さなど、落ち着くイメージがあります。

ばあちゃんという呼び方には、人それぞれおばあちゃんと呼んだり、ばあばと呼ぶ人もいます。それも、それぞれのイメージがあると思います。

この、「ばあちゃん」という短い言葉でもたくさんイメージがうかんできて、温かい気持ちになります。これから、この「ねえ、ばあちゃん」という言葉を大切にしたいです。